



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.96

「子どもたちを褒めてみよう」

保健福祉学部 社会保育学科 講師 奥村 香澄



子育ての中で、「褒める」と「叱る」を意識して使っているでしょうか？子育ての相談を受けるときに、程度はさまざまですが、友達を叩く、親に向かって暴言を吐く、一度で言うことを聞かないなど、大人にとって扱いにくい行動をどうしたら減らせられるか、とよく聞きます。その場合、全ての行動に対応できるわけはありませんが、まずは叱らずに、今できていることを褒めるのが大切です。叱るのではなく、子どもの問題行動を無視してください。子どもたちはずっと問題行動を起こしているわけではありません。

注目を与える「こと」によって、不適切な行動を減らし、適切な行動を増やすことができます。子どもに危険がないよう目の端に入れつつ、お母さんやお父さん、ときには学校の先生は、子どもの行動を見ないフリをします。もちろん度合により、危険な行動や許されない行動は、してはいけないと伝える必要があります。ことができると適切な行動が、できる限り叱るのをぐっと堪えて、適切な行動が起きるのを待ちます。適切な行動が起きたら、すかさず「ゲームを自分でやめることができているね」などと具体的に適切な行動を拾いあげて褒めましょう。



ですが、場合によって、子どもの「もっと見てー」という気持ちが大きくなり、一時的に問題行動が増える場合もあります。実施が難しくてもあれば、医師や心理職に頼ることも必要です。ここで大切なことは、子どもの存在そのものをではなく、行動を無視すること、完璧ができたらではなく、25%ができた時点で褒めることです。これらの手法は、ADHDなどの発達障害児がいる保護者を対象としたトレーニングの一つですが、子育て全般に応用することができるといえます。

微笑みかけたり、ハイタッチするといった褒め方もあります。大げさに褒められることを好まない子どももいるので、子ども一人ひとりに合わせた褒め方を知ることが大切です。

褒めることが難しかったり、最近叱ってばかりと感じている方は、お子さんがお手伝いをしてくれたときや、素直に謝れたときは、その場で「お手伝いをしてくれて、お母さん助かったよ。ありがとう」と一声かけてあげてください。その年齢の子どもであれば行って当然と思える行動、例えば、自分から進んで宿題やお手伝いをするなどの行動であったとしても、褒められると子どもはとても喜びます。こんなことで褒めていいの？と思われるかもしれませんが、お父さん、先生も「褒める」練習をしてみてください。



大学図書館へようこそ！

新型コロナウイルスの感染拡大が収束しないまま、12月を迎えました。今後の入試や、4年生の国家試験なども状況が心配されます。十分な対策を取り、無事遂行できるよう願っています。

【12月の開館について】

12月31日(木)から1月5日(火)まで休館です。

12月24日(木)以降は午後5時で閉館です。

学外の方は本の貸出・返却のみご利用できます。

◆問い合わせ
名寄市立大学図書館

01654@7671(直通)
ncu_library@nayoro.ac.jp



大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～



褒めることや子育てにあたって読んでおきたい図書を紹介します。

『自己肯定感の育て方 ほめる、叱る、言葉をかける』
今井 和子・波多野 ミキ・堀内 節子/著 ほんの木

『マンガでわかる 怒らない子育て』
安藤 俊介・長縄 史子/著 永岡書店

『子どもが変わる怒らない子育て』
嶋津 良智/著 フォレスト出版

『子どもの心の育てかた』
佐々木 正美/著 河出書房新社

→どの本も子育てを楽しみ、親子が幸せになれる極意が詰まっています。